

年 組 名前：

調印後、握手を交わす梅沢重雄理事長(右)とセルギー・コルスンスキー特命全権大使



スマホで動画
AR MOVIE
モーターグライダーによるフライトショー
|| いずれも日本航空高



避難民受け入れ縁 教育、研究で交流

日本航空学園、ウクライナ航空大と協定

日本航空学園(梅沢重雄理事長)は8日、ウクライナ国立航空大と教育協力に関する協定を結んだ。ウクライナの避難民を受け入れることが縁で協定が実現。ウクライナの特命全権大使が感謝の意を表すと、8日に始まった「建学90年特別航空祭」に合わせ、日本航空高(甲斐市宇津谷)を訪れ、協定書に調印した。

〈藤井駿伍〉

調印式では、梅沢理事長とセルギー・コルスンスキー特命全権大使が、協定書を取り交わした。梅沢理事長は「協定によって将来的に、共同で航空機の開発やパイロットの養成などができればうれい」とあいさつ。コルスンスキー特命全権大使は「日本航空学園に救いの手を差し伸べてもらいありがたく思う。今後も交流が続くことを期待している」と話した。

調印式では、避難したウクライナの17人を受け入れている。協定に基づき、学園とウクライナ国立航空大は教育や研究の分野で相互交流を進めていく。具体的な内容は今後協議する。

一方、建学90年特別航空祭は10日まで開催。初日は航空科の教官がモーターグライダーを操縦して隊列を組んで飛行したり、旋回したりするフライトショーが行われた。生徒でつくるウイングダンスカンパニーや吹奏楽団、太鼓隊

のパフォーマンスもあった。最終日は、生徒約700人が校内の滑走路で行進する伝統行事「観閲式」を行う。

(2022年10月9日付 山梨日日新聞 20面)

問1 日本航空学園とウクライナ国立航空大は、どのような協定を結びましたか。

.....

問2 協定を結ぶ、きっかけになった理由を教えてください。

.....

問3 梅沢理事長は、将来的に、何ができれば良いと話しましたか。

.....

問4 航空祭では、どのようなショーやパフォーマンスがありましたか。

.....